

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓	誠実・明朗
めざす学校像	
1	生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
2	地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
3	教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
育てたい生徒像	“３つのC”
○ 創造的な人間（Creation）	学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
○ 信頼される人間（Confidence）	高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
○ チャレンジする人間（Challenge）	困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1	教育力の向上
	（１）新教育課程に基づいた教育活動
	ア 新学習指導要領に新学習指導要領に基づく学習状況の評価を行う。
	（２）確かな学力の育成
	ア 基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
	イ 授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 家庭学習時間が 0 分の割合を令和 6 年度には 7 %未満とする。（R 1：10%、R 2：12%、R 3：8 %）
	ウ 論理・表現 I 及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
	エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 図書館の利用人数を令和 6 年度には 4000 人以上とする。（R 1：3581 人、R 2：3733 人、R 3：2197 人）
	オ 地球規模の課題 SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。
	カ インターネットを利用し、教育産業学習ツールの活用を進める。
	（３）授業力の向上
	ア 授業充実 PT を核に「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして全教科で授業実践する。校内の ICT 環境の活用と、1 人 1 台端末の活用を考えた授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、判断、表現）の向上を図る。 ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。（R 1：78%、R 2：81.7%、R 3：83.1%） ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。（R 1：79%、R 2：82.7%、R 3：84.4%）
	イ 「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。 ※研究授業・公開授業の実施回数を、令和 6 年度まで引き続き年間 10 回以上とする。（R 1：10 回、R 2：12 回、R 3：10 回）
	ウ 授業力向上の取組み及び 3 年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。 ※令和 6 年度には、国公立大、関関同立大合格者数を 160 名にする。（R 1：108 名、R 2：182 名、R 3：186 名）
	（４）3 年間を見通したキャリア教育
	ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
	イ 補習・講習（授業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。 ※学力生活実態調査を 1、2 学年年 2 回、3 学年年 1 回実施し、分析会を行う。 ※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、令和 4 年度まで引き続き年 1 回以上実施する。（R 1：3 回、R 2：3 回、R 3：3 回）
	ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。 ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
	（５）グローバル人材の育成
	ア 姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。
2	豊かでたくましい人間性のはぐくみ
	（１）部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。
	ア 部活動加入率を、令和 6 年度には 90%以上にする。（R 1：88%、R 2：83.8%、R 3：85.4%）
	（２）生徒会活動の活性化
	ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。
	イ 学校生活における自治意識を高める。
	（３）生徒指導を進める
	ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。
	イ 交通安全指導を継続する。
	（４）校内美化の推進
	ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。
	（５）人権尊重の教育の推進
	ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。
	（６）安全で安心な学びの場づくり
	ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。
	イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。
	ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。
	（７）始業式・終業式を、自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場とする。
	ア 部活動の成果等を伝達表彰する。

府立山田高等学校

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり
（１）組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。
ア 各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。
イ 各分掌と各学年のバランスを図る。
ウ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。
超過勤務月間 80 時間以上の教員年間延べ人数を令和 6 年度には 20 人以下とする。（R1：29 人、R2：25 人、R3：20 人）
（２）保護者・地域との連携
ア 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。
（３）教育活動の情報発信
ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。
イ ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
（生徒アンケートより） 学級・学校生活について(92.6%、92.3%)、授業における ICT 活用について(96.9%)、教員の学習評価について(91.9%)、体育祭・文化祭について(91.4%)、クラス活動について(90.0%)、困っているときの対応について(92.2%)、ICT 活用の指導について(90.9%)、人権学習について(94.3%)、個人情報・プライバシーの保護(91.2%)、進路情報の提供および進路学習について(93.6%、95.2%)、奨学金情報の提供について(91.9%)などは、肯定的回答がいずれも 90%を超えていることから、大部分の生徒にとって安全で安心な高校生活が実現できており、教員の指導に対する納得度、学校生活への満足度が昨年度よりさらに高くなっていることが読み取れる。また、今年度は、新型コロナウイルス禍の中でも、感染症対策を講じながら、体育祭、文化祭、修学旅行をコロナ禍前に近い状態で実施することができたことが高い満足度の要因の一つになったと分析している。「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。」という質問項目については、昨年度の分析に基づき、「保健室や相談室等で」に対象を限定せずに聞いたところ、肯定的な回答が 72.4%、否定的な回答が 42.7%から 27.6%と改善した。 （保護者アンケートより） 残念ながら、回収率が昨年度の 80.3%から 71.4%と下がった。学校の教育活動についてはよくわからないから回答できないという保護者が多いのではないかと推察されるので、課題と受け止め、教育活動についての積極的な情報発信にさらに努めていきたい。 学校生活について(92.1%)、学習内容等の情報提供(89.3%)、ICT 活用(88.4%)、体育祭・文化祭について(94.7%)、生活・学習規律について(88.0%)、心身の健康についての相談体制(83.7%)、進路指導について(82.5%)、社会のルールや人権尊重の教育について(86.3%、85.9%)、プライバシーの保持(94.0%)、災害等緊急時の対応について(89.3%)、教育情報の提供と保護者との意思疎通(84.9%)、新型コロナウイルス感染症対策(83.0%)、学校ホームページでの情報発信(82.9%)など肯定的回答がいずれも 80%を超えていることから、保護者にとっても、生徒の高い満足度と、生徒が安全で安心な高校生活をおくっていることを実感してもらっていると思われる。「授業・学習指導」については、生徒の授業満足度が 82.8%であるのに対して、保護者が 61.5%と開きがあることは課題ととらえ、学習の内容や生徒の達成度を懇談や説明会などの機会にわかりやすい形で保護者に提示するとともに、保護者対象授業公開を年間行事予定に入れて、年度当初に周知するなど授業・学習指導について保護者への周知に努めてゆきたい。 「PTA 活動に参加したことがある。」という質問については、コロナ禍前から否定的回答が多かったことから、来年度からは「学校の PTA がどのような活動をしているか知っている」というふうに PTA 活動の認知度を問う質問に変更する。 （教職員アンケートより） 教職員アンケートについては、「よくあてはまるという肯定的回答が 25%以上の項目が大幅に増えている（12 項目→22 項目）が、肯定的割合が高い項目（生徒・保護者の満足度、ICT 活用、教育相談体制、学校行事の工夫、部活動の活性化、生徒指導、情報管理、広報、感染症対策）に対して、肯定的回答割合が高くない項目は昨年度と同様に「学校運営」・「組織力」の分野となっている。その中でも、昨年度と比較して、各分掌・学年間の連携(66.0%⇒76.0%)、計画的な校内研修(69.2%⇒77.6%)については肯定的回答が改善している。近年、ICT を活用した校務の効率化を進めているが、多くの教職員の多忙感はいまだ払拭できない。教職員の意思疎通や意見交換を密に行うとともに、問題意識や悩みを気軽に相談し合えるような時間と余裕を確保するように努めていきたい。	第 1 回（7/14） ・部活動も盛んである印象がある。今までの蓄積から、さらに次へと発展させてほしい。 ・SDGs に取り組んでいるのは大きな特徴である。 第 2 回（12/6） ・部活動加入率を増やすために、もし入りたい部活動がなければ、新しい部・同好会を設立する手続きを生徒に周知してはどうか。 ・自転車マナー向上のために、通学のコースをきちんと決めることが必要ではないか 第 3 回（2/13） ・学校教育自己診断の授業に対する満足度を問う質問について、生徒と保護者で文言を統一した方がよいのではないか。 ・図書館の活用について、楽しい取り組みをするなど、やり方は工夫すればいろいろあると思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
1 教育力の向上	（１）新教育課程に基づいた教育活動 （２）確かな学力の育成	ア・新学習指導要領に基づく学習状況の評価を行う。 イ・授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 エ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 オ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。	ア・新学習指導要領の観点別学習状況評価の実施 イ・山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を、対前年度比減する。[8%] エ・利用を促進し年間の利用者数 3000 人以上をめざす。[2197 人] ・貸出冊数を増やす [434 冊] オ・生徒全員の主体的なレポート発表ができたか	ア・業務量は増加したが、順調に評価できた（○） イ・14%（△） エ・3088 人（○） ・428 冊（△） オ・校内発表だけでなく、行政・企業と共同で SDGs に取り組み、万博記念公園駅でイベント及び発表を行った。（◎）
	（３）授業力の向上	カ・インターネットを利用し、教育産業学習ツールの活用を進める。 ア・ICT を活用した授業研究・授業実践を推進する。	カ・教育産業学習ツールの活用と到達度等で判断する。 ア・ICT を活用した授業実践を各教科で年間 1 回以上行う。	カ・生徒の到達度を共有し、事後の学習活動に活かした。（○） ア・100%の教員が実施し、実技を除くすべての授業でオンライン授業も行った。（◎）

府立山田高等学校

			・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 80%以上を維持する。 [83. 1%] ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合 80%以上を維持する。 [84. 4%] ・学校教育自己診断の（教職員）「ICT 機器を授業に活用している」の肯定回答率（以下、同様）90%を維持する。 [98. 1%] ・学校教育自己診断の（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」90%を維持する。 [94. 5%] ・生徒が主体となる授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・学校教育自己診断（教員）「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」80%を確保する。 [76%] ・授業内容を検討し、学校教育自己診断の（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。 [60. 4%] ・1人1台端末の導入及び活用について研究を進め、各教科で教材を開発する。	・85. 1%（◎） ・84. 5%（○） ・100%（◎） ・96. 9%（○） ・全教科で学期に1回以上実践できた。（○） ・80. 4%（○） ・78. 2%（◎） ・座学全教科で実施、教材開発を行うとともに、外部への公開授業等で実践情報公開を実施（◎）
	（4）3年間を見通したキャリア教育 （5）グローバル人材の育成	イ・「ICT を活用した授業・生徒 主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。 ウ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。 イ・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。 ウ・卒業生、同窓会等と連携したキャリア教育を実施する。 ア・姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。	イ・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。 ウ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。 [152 人] 希望進路の実現率を向上させる。 [99. 4%] イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施できたか。 ・学力生活実態調査を1、2 学年年2回、3 学年年1回実施し、その分析会を行う。 ・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考查を各学年、年1回以上実施する。 ウ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年1回以上持つ。 ア・姉妹校の Bentleigh secondary college と英語を用いた交流（メールやオンライン交流会）を実施する。	イ・初任者2回、英語1回 PTA 公開授業4回 中学生向け公開授業2回 校長会（教育課程委員会）1回（○） ウ・164人、希望進路実現率99. 7%（○） イ・夏期講習を組織的に実施（○） ・学力生活実態調査を5回実施し、分析会を行い、指導に生かした。（○） ・全国模擬試験を本校にて各学年1回実施（○） ウ・教育実習生によるキャリア教育を実施（○） ア・コロナによりメール等のみになったが、姉妹校及びアイルランドの学校と交流を行った。（○）
2 豊か でたく ましい 人間性 のほぐ くみ	（1）部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成 （2）生徒会活動の活性化 （3）生徒指導を進める	ア・部活動への積極的な参加を促す。 イ・修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。 イ・学校生活における自治意識を高める。 ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。 特に長期休業あけの指導を強化する。	ア・部活動加入率90%をめざす。 [85. 4%] イ・修学旅行後のアンケートでの満足度等。 ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率90%以上 [94. 3%] の水準を保つ。 イ・生徒会執行部発信の取組みがあったか。 ア・遅刻総数前年度比5. 0%減。 [1169 人] ・服装・頭髪違反者なし	ア85%（1:91. 2%、2:82. 5%、3:80. 7%） コロナの影響により2、3年生部活動率の増加はなかったが、積極的な働きかけによって1年生では目標を上回った。（○） イ・満足度99. 3%。（○） ア・91. 4%（○） イ・生徒総会（2回）で生徒会発信の取組みを全校生徒に周知の上、取り組みを実施、体育祭規定等を変更。服装について検討を行い、新形式の試行を行った（◎） ア・1048人（昨年比9%減）（◎） ・スカートの短い生徒が増加した以外服装違反、頭髪違反無し（○）

府立山田高等学校

	(4) 校内美化の推進 (5) 人権尊重の教育の推進 (6) 安全で安心な学びの場づくり	イ・交通安全指導を継続する。 保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。 ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。 ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。 ア・いじめを許さない体制作り ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。	イ・交通マナー（規範意識）の状況（日々の登校状況、地域からの意見）、事故の未然防止。 ・登校指導の実施（PTA、地域等と連携） ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上の水準を保つ。[66.4%] ア・毎日の清掃活動が徹底できたか。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化ができたか。 ・終業式後等に一斉に大清掃（年3回）を行う。 ア・人権研修会を年1回以上実施する。生徒の理解の状況（アンケートで把握）。 ア・いじめ事案の未然防止ができたか。 ウ・生徒が正しい感染症対策を行い、感染症による人権侵害がない状態にあるか。	イ・大きな事故はなく、交通マナーも改善された（○） ・他校、地域、PTA 共同で登校指導を実施した。（○） ・80.5% 目標数値には達しなかったが、大幅に改善した。（○） ア・概ね良好である。（○） ・年3回実施（○） ア・部落差別についての生徒研修を実施した。生徒の理解は深まっており、アンケートで否定的な意見無し。（○） ア・いじめ重大事案はない。アンケート後の聴き取り等で確認。（○） ウ・感染対策進んでいる。人権侵害なし（○）
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する (2) 保護者・地域との連携 (3) 教育活動の情報発信	ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 ウ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。 ア・地域との連携を深める。 ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ・ホームページ、メールマガジンによりタイムリーな情報発信に努める。	ア・学校運営についての連携が取れているか。運営委員会等での様子で判断する。（連絡もれ等がないか） ウ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。[延べ 20 名] ア・地域協議会等へ 80%以上参加する。[5 回] ・学校行事に地域からの参加をえる ア・中学生・保護者に必要な情報を伝える学校説明会の実施ができたか。（アンケートでの満足度 80%以上） イ・学校教育自己診断の連携、情報提供が 70%を維持できているか。	ア・連絡もれ等はない。学年単位の居場所等を考える必要もある。 学校教育自己診断で連携の肯定的意見 76%に増加（○） ウ・現時点で 23 名（ICT 等の業務増）（△） ア・コロナのため減ったが、7 回（87.5%）参加（○） ・コロナのため、学校行事への地域からの参加は中止したが、地域清掃を合同で実施できた。（○） ア・十分できている。アンケートの満足度 99.9%（○） イ・情報発信について肯定的意見 80.6%（◎）